

俳句

大津俳句会

花合歡はなねむに風のやさしくなるばかり

井芹眞一郎

黒雲くろぐもの重たくなりし遠蛙とつかわ

秋山 恵

十葉じゅうはのところかまわず咲きにけり

大塚喜久子

植田へと引かるる水の音元氣

佐賀 久子

太りたる雨に喜こぶ額の花

岡崎 浩子

ふるさとの風は嫺たおやか金鳳華きんほうげ

森山美穂子

倒木たおきや地に還かえるべく苔の花

佐澤 俊子

大木おおき下に鴉からす密ひそやか日の盛さかり

中林 好子

俳句

つのはな句会

荒らされいく穀倉地帯よ麦の秋

志賀 孝子

草笛を習い子等去る風の丘

田上 公代

不意に来る天災・人災麦は穂に

木庭 杏子

夏雲のはるか尾翼が燃えている

上杉 波

こいのぼり混迷の世の風はらむ

矢嶋 道子

麦の穂を刈りて広がる大地かな

水野 春子

ヤマセミを追えば 阿蘇に雨が降る

梅木トキエ

風光る師の「夢幻座」は道しるべ

塚本 洋子

人類は絶滅危惧種青山河

榮田しのぶ

風薫る自分の殻を楽しみて

村田 健二

短歌

大津短歌会

何処より来たりしものぞ大釜かまのなか所せ
ましと泳ぐ水蜘蛛みずぐも

鞍 岳志

背丈のびシヤクヤクの花晴れやかにピン
クの色で賑わい見する

管野 静

久びさに白き花つけ満天星どうだんは五段の塔に
咲き満ちており

豊岡ミツル

亡夫つまの名の薄く残りし携帯のラジオは明
日の予報を流す

吉永 恵子

空中で沸くごと群れる海鳥は翼水平体位
を保つ

坂本 果子

庭の薔薇期待に勝り咲きにけり花は黙し
てひたすら白し

小平 善行